

新潟県 公民館月報

KOMINKAN GEPPU



September 2017
No.775



子ども書道教室(湯沢町公民館)
地元書道家による小学生対象の書道教室

4~5 特集 被災地子ども支援

新潟県立大学 教授 植木 信一

CONTENTS

- | | | | |
|---|------------------|---|--------------|
| 2 | トピックス | 「関プロ群馬大会開催される」 | 事務局長 田原 理 |
| 3 | 視点
ひろば
掲示板 | 「コミュニティ室～フレアイ～」 刈羽中学校 校長 廣田 徳昭
「妙高はねうまカレッジ『まなびの杜』の活動」 妙高市生涯学習課 大西 明
「臨時 正副会長会の開催」 | |
| 6 | 実践記録シリーズ | 「牧地区公民館出前学級講座」 | 上越市牧地区公民館 |
| 7 | サークル交流
素顔拝見 | 「台風5号が本県最接近！」(見附市) / 「作品展にむけて励む」(新発田市)
佐藤 裕子さん(新潟市) / 小崎 誠さん(佐渡市) | |
| 8 | お元気ですか
恵贈資料紹介 | 「たった一度の人生」 | 小千谷市・保科 義明さん |

TOPICS

関ブ口群馬大会開催される

事務局長 田原 理

今年の関ブ口(関東甲信越静岡ブロック)公民館研究大会が8月24日(木)、25日(金)に群馬県前橋市で行われました。総参加者は699名で、新潟県の参加者は11名でした。盛夏の時期で高気温が心配されましたが、心配するほどのことはなく無事終了しました。
2日間の大会の主なことをリポートします。

〈分科会〉

分科会発表では新潟市の鷺尾雄二さんが「高齢者・シニア世代と公民館」の分科会(64名参加)で実践発表をしました。



分科会で発表中の鷺尾さん

発表題は「地域を元気に！アクティブシニアを支援する公民館事業」大変わかりやすい発表でした。

〈講演〉



基調講演講師:鈴木真理氏(青山学院大教授)

講演題「生涯学習・社会教育・公民館」期待と現実と「展望と」現状分析は課題を指摘、それぞれの展望を分かりやすく解説しました。90分間、終始、ユーモアを交えた親しみのある講演でした。



鷺尾さんの発表に質疑が相次ぎました。

〈表彰、次期開催地、司会者など〉

開閉会セレモニーの表彰、大会旗引継ぎは厳粛に行われまし

た。アトラクションは弦楽四重奏、司会者は地元の現職アナウンサーでどちらも好評でした。



表彰(優良職員、永年勤続職員、功労者、公連勤続職員、関ブ口表彰)が行われ、51名の方々が受賞しました。本県の石崎茂氏(加茂市公民館須田分館長)も受賞しました。



司会者は地元の現役アナウンサー。よどみない語り口でした。



アトラクションの群馬交響楽団弦楽四重奏の演奏。親しみのある曲目で楽しい演奏を披露しました。



来年は東京大会です。11月1日(木)〜2日(金)日本青年館で開催されます。全公連神崎副会長に大会旗が引き継がれました。

「新潟県公民館月報」 毎月15日発行 いつでも申込み受付中

公民館月報 定価1部160円 年間1,920円(いずれも送料含む)

申込先 〒950-2004 新潟市西区平島1301番地 中野プラザ107 新潟県公民館連合会 TEL・FAX025-266-7711



「妙高はねうまカレッジ『まなびの杜』の活動」 ～「つどう」「むすぶ」「まなぶ」～

妙高市生涯学習課 大西 明



妙高市では、すべての市民が人生100年時代を心豊かに健康で生き生きと過ごすことができるよう、市民に多様な学びの機会を提供し、学びに関する支援を行っています。

生涯を通して自ら学び、一人ひとりが個性や能力を伸ばし、生きがいや仲間づくりを進め、充実した人生を送ることができるよう、生涯学習社会を目指しています。

また、この学びで得た知識や技術を伝える場や環境を整え、地域や社会に活かす学習成果を還元する取り組みを進め「学びの循環」を形成し、市民主体の地域づくりを目指しています。

視点



刈羽村立刈羽中学校
校長 廣田 徳昭

「コミュニティ室（フレアイ）」

刈羽村では、「刈羽コミュニティ・スクール」、4年目を迎えています。

毎週金曜日の昼、校舎1階「コミュニティ室（フレアイ）」から、地域の方々の声が響きます。「今日の昼休みは、生徒と何を作ろうか?」、笑顔の打ち合わせが続きます。

「ここ3年間、卒業式では、卒業生の胸に、手づくりの「コサージュ」が輝いています。コミュニティ室で、地域の方々が、ひとつひとつ手づくりしてくれたものです。

「ここ3年間、卒業式では、卒業生の胸に、手づくりの「コサージュ」が輝いています。コミュニティ室で、地域の方々が、ひとつひとつ手づくりしてくれたものです。

今年度も、卒業式に向けて、「コサージュづくりが始まりました。」「こっちの色の方がいいのでは?」、試作が重ねられています。

掲示板 HOT NEWS

第1回評議員会(5月19日(金)新潟市)では、市町村負担金の見直しについて協議を行い多くの意見が出ました。それらの意見について、第2回理事会(6月9日(金)新潟市)で協議をし、次のとおりになりました。

- 1 財政・負担金の全国調査を行い全国の実態を把握する。
- 2 全国調査の結果を基に新潟県の財政運営を検討する。

県公連事務局では、現在、全国調査を行っています。

臨時 正副会長会の開催

中には全国の都道府県からの回答が集まる予定です。回答をまとめて資料とし、次の会議で協議します。

〈臨時 正副会長会〉

日時 平成29年10月19日(木)13:30～

会場 新潟市中央公民館

なお、この会議の結果を来年2月14日(水)新潟市中央公民館で開催予定の「第2回評議員会」に協議資料として提出します。

特集

被災地子ども支援



新潟県立大学 教授
植木 信一

1. 東日本大震災(南相馬市)

私は現在、東日本大震災の被災地である福島県の南相馬市教育委員会と、子ども支援プログラムで合意し、児童館・放課後児童クラブへの子ども支援プログラムを継続的に展開しています。そのきっかけは、新潟市内に避難してきた被災地の子どもたちとの出会いでした。

震災直後は、福島隣県である新潟県へも多くの被災者が避難してきました。震災直後から設置され

た新潟市内の避難所には、子ども専用スペース(キッズルーム)が開設され、新潟県立大学はその運営にかかりました。子どもたちにとっての避難所は、被災前の環境条件すなわち「普段」とは異なり自由な活動が制限される空間であり、子どもたちもそうした雰囲気を感じ取っていました。避難できたとはいえ、子どもたちのストレスは大きかったと想定されます。そのような環境条件において、子ども専用スペースであるキッズルームの存在は、「非日常」を余儀なくされる子どもたちにとって、被災前の環境条件の回復すなわち「日常の回復」を確保することにつながりました。そこは、単なる空間ではなく、ボランティアたちとかわるなかで少しずつ日常を回復することのできる「生活の場」として機能したのです。

その後は、繰り返し南相馬市に出向き、継続的な児童館・放課後児童クラブへのかかわりを被災地子ども支援として実施することになりました。南相馬

市教育委員会と連携を保ちながら、繰り返し南相馬市の児童館・放課後児童クラブの子どもたちを対象に支援活動をかさねてきました。現地との継続的なかわりは、互いの信頼関係を育むことにつながり、新潟県立大学と南相馬市との連携協定の締結(2015年3月)に至りました。

南相馬市の子どもたちには単に支援物資を届けるだけではなく、新潟県立大学の学生ボランティアなどの協力を受けながら「人から人へ」と、子どもとおとなが交流するプログラムとして実施しています。継続的な新潟県立大学の学生ボランティア訪問により、対象となる南相馬市の子どもたちにとっては、「いつも気にかけてくれるおとなたち」となっているようです。そのような「いつも気にかけてくれるおとなたち」が、被災地の子どもたちとかわることに重要な意味があるのです。

2. 熊本地震

熊本地震の被災地である熊本県内の放課後児童クラブで、国際NGOや熊本県学童保育連絡協議会と連携しながら定期的に子ども支援プログラムを進めています。一般的に「子ども支援」というとおとなが子どもに対してボランティアをするようにを想像するのではないのでしょうか。ところが、避難所となった小学校では、早い時期から子どもによるボランティアが活躍していました。なぜでしょうか。

子どもたちにとってみれば、非日常とはいえ自分たちの居場所であった小学校が避難所となって地域の方たちが入ってくるかたちとなり、必然的に案内係などの役割意識が芽生えたのだと思います。小学校のことは毎日通っている子どもたちのほうがよくわかっているのです。また、地域のおとなたちも、そのような子どもたちの活躍ぶりを目の当たりにしながら、「自分たちおとなは子どもたちのために何ができるだろうか。」という気づきによる相乗効果をもたらしました。

地震から1年以上が経ち、現在は地域全体が日常を取り戻しつつあります。しかし、被災した子ども

たちが日常を取り戻すためには、やはり、地元のおとなたちの継続的な寄り添い支援が重要な要素であると思うのです。外部からの支援のみならず、地元のおとなたちが地元の子どものこともともに地域を支えるシステムの構築が期待されます。

熊本県の放課後児童クラブでは、地元のおとなでもある放課後児童支援員による寄り添い支援が、子どもたちの日常を担保しはじめています。子どもたちにとっては、震災前と同じ放課後児童支援員による継続的なかかわりが日常そのものなのです。「被災地子ども支援」には、地域で子どもを支えるしくみがあることに気がつきます。

子ども支援活動にかかわっていると、これらのシステムは被災地だけに限定されることなく、本来の地域社会に必要なシステムであることに気がつきます。「被災地子ども支援」は、普段の私たちが地域で果たすべき役割についても教えてくれるのです。

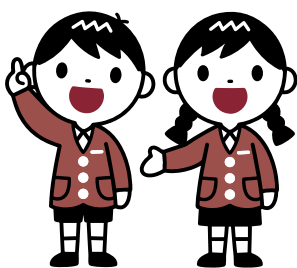
3. 「被災地子ども支援」とは何か

被災地以外の子どもをよつすを概観するなかで、被災地における子ども支援として進められたこれ

らのアプローチが、被災地以外の生活の場においても普遍的に適用できるのではないかとということもわかってきました。子どもの発達の源泉となる生きる力の獲得につながる視点は、被災地特有の特別なことではなく普遍的な視点でもあるのです。

南相馬や熊本を訪問する際は、必ず子どもたちと「またね」の約束をします。「いつも気にかけてくれるおとなたち」との交流は、子どもたち自身喜びと自己肯定感を育み、被災地でもあきらめない子どもたちの将来の希望へとつながると信じています。

被災地を含めたすべての子ども支援活動は、これら子どもたちの自己肯定感を育むために行われるのであり、すべては「チルドレン・ファースト」のためなのです。



実践記録シリーズ

234

「牧地区公民館出前学級講座」

上越市牧地区公民館

【はじめに】

牧地区公民館では、地域課題の解決と、市民ニーズに即した事業の実施を目的とし、町内会などに出向く方式の「出前学級講座」の普及に力を入れています。講座会場は集落の公会堂などを利用して、気軽に足を運べることや交流のための場づくりに配慮しています。講座を介し、世代を越えた市民同士が接することで、「社会参画」や「生きがい対策」に繋がることを目指し取り組んでいます。

【活動の概要】

出前学級の講座内容は、健康教室、手工芸、調理実習など様々で、平成28年度には34回開催し、420人が受講しています。

講座の開催においては、市民団体「牧振興会」や、社会福祉協議会、市保健師と連携し、より充実した内容になるよう工夫しています。

【講座内容の紹介】

★調理実習

牧振興会と連携し、牧区内6地区において、調理実習講座を行っています。調理材料は自家製野菜などを参加者が持ち寄り、自宅で簡単にできるアイディア料理を学び、併せて、保健師による健康チェックと健康講話も行っていきます。



★防災講座

中越地震を契機に防災意識の高揚を目標とし、出前学級参加者に声掛けをして、各地区で手づくりの防災頭巾を作製しています。

作製された防災頭巾は、牧区内の保育園や小中学校に配布し、災害に対する備えをするとともに、避難訓練などで着用することで、子供たちの防災意識の高揚を図っています。また昨年からは、有事の際にも役立つ、ホイッスルペンダントの作製講座を開催しており、災害時などに助けを呼ぶためのアイテムとして、現在区内で100個ほど配布しています。



★わら細工講座

牧区では昔から、『わら』を貴重な資源として利用してきた歴史があり、この技術を後世



にも継承することを目指し、わら細工講座に取り組んでいます。昨年は、しめ縄づくりに重点を置き、各地区で6回の講座を開催しました。

【事業の成果と今後の取り組み】

牧地区公民館では市町村合併前から、地域づくりの一環として、町内会などで開催する出前学級講座を推進しており、地域の理解を得る中、徐々に開催数も延びてきました。

しかし近年、少子高齢社会に伴う過疎化が、地域全体の大きな課題となっており、公民館事業においても、参加者の減少など、影響が及んでいます。

これらの状況を踏まえ、そこに住んでいる人々が元気で安心して過ごせる地域づくりを目指し、関係する団体等との横の連携をより強化し、魅力ある出前学級講座の普及を図りたいと考えています。

(上越市立牧地区公民館主事 梨本りよ子)





台風5号が
本県最接近！

寿学級「ペン字」

台風5号が本県最接近！台風の速度が余りにも遅くて、1時間に60ミリの非常に激しい雨が降ると予想されたある練習日、集まった会員は全部で5名!! ナントマア、オンレシラズかノー天気か? 幸い厳しい風雨には見舞われずに、ペン字の練習に没頭、没頭に、なりました。

私達ペン字の仲間は今、12人の会員数です。20年余りのサークルの歴史があり、最近初回から続けて来られた方が県外のお子さんの所に移られました。

作品展にむけて励む

火窯会

欲も出て来て最近では実用書道の練習、発表もやっておりますが、なんといつても厳しい? 練習の後、コーヒーを飲みながらお菓子頂き、おしゃべりを楽しみ、これは毎回欠かせません。悩みは男性もたまには入会するのですが、いつの間にか姿が見えなくなる事でしょうか。

見附市・寿学級「ペン字」
高橋 博章 記



新発田市・火窯会
田中 正夫 記



を楽しむことをモットーにしています。制作は手回し轆轤で「手捻り」が中心です。教室のスペースは狭いのですが、お互いに譲り合い、協力し助け合いながら活動しています。

白根地区公民館
副査 佐藤 裕子さん

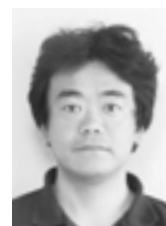


今年4月に当館に配属された佐藤裕子さんを紹介します。おもに貸館業務を担当している佐藤さん。かわいらしい笑顔と親しみやすい雰囲気、そして分かりやすい説明で、利用者さんからもたいへん好評です。3年間の育児休業明けに異動してきたとは思えないほど、毎日てきぱきと仕事をこなし、家に帰ってからママとして家事育児をがんばっています。

このように書くとき非の打ちどころがないように見える佐藤さんですが、その華奢な雰囲気には似合わず実はかなりの大食漢。副任として担当している「子どもクッキング」で余った料理を3人分はたいたら、男性職員を驚かせたこともありました。

この原稿の顔写真も「人生最高の瞬間を」と、結婚式の写真を提出しようとしたユニークな佐藤さん。これからも白根地区公民館のみならず、新潟市の公民館を楽しく盛り上げてくれることでしょう! (白根地区公民館 若林 千陽 記)

佐渡市相川地区公民館
主任 小崎 誠さん



4月から佐渡市相川地区公民館に籍を置いている小崎誠(こざきまこと)さんを紹介します。

14年ぶりの公民館勤務となる小崎さんは、スポーツ少年団の活動からソフトボール大会などのスポーツ活動を中心とした公民館事業を担当しています。

また、修学旅行で佐渡を訪れた児童たちに郷土の「鬼太鼓」を披露するなど仕事外でも地域の活動に取り組んでいます。

佐渡市は、スポーツイベントによる交流人口の増大を図っていますが、その「ロングライド」「シートゥーサミット」「トライアスロン大会」などのイベントを成功させるために取り組むとともに、スポーツ少年団の育成など地域に密着した地道なスポーツ活動にも取り組んでいます。

たくさんの方が大変だと思いますが、スポーツ活動を通しての人づくり、地域の活性化が図れることに期待しています。

(佐渡市相川地区公民館 岡部 欽也 記)

素顔拝見

お元気ですか

「たった一度の人生」

定年後17年、歌の文句じやないけれど「知らず知らず歩いてきた」。市職員退職後、市の臨時職員、障がい者施設の事務職員、シルバー人材センターの会員、世界一の四尺玉で有名な片貝まつりの事務職員、中越大震災では小千谷市ボランティアセンター事務局員、市統計調査員などなどいろいろな体験をさせてもらって現在に至っている。

保科 義明

(小千谷市)



シルバー人材センターで経験した古文書整理が縁で、古文書に興味を持ち「古新会21」というサークルを立ち上げ古文書の解読を学びながら、市の古文書をボランティアで整理もしている。

また、古文書の学習をとおして、郷土の歴史にも興味を持ち、サークル主催の「古文書と郷土の歴史」と銘づいた市民向けの

イベントも行っている。

今は、市の公民館事業の高齢者学級「富久寿大学」へ入り、さまざまな講演会やイベント、旅行に参加するとともに文芸クラブに所属し、短歌、俳句、川柳を学んでいる。

健康でいるお陰で、いろいろなことを学び、人との交流ができることは幸せと思っている。「たった一度の人生」からだに気をつけて、一日一日を大切に生涯学習に励んでゆきたい。

※「お元気ですか」コーナーは現役をリタイアした方がその後にも元気に活動している様子を紹介するコーナーです。

恵贈資料紹介

「全国公民館連合会編」

全国公民館連合会では平成29年度の公民館関係書籍を発行しています。

1 公民館必携 平成29年版
公民館管理者であれば知っておくべき、公民館を運営するにあたって重要な法令や通達をまとめた必携の一冊です。



本体3,000円+消費税

2 新訂 よくわかる

公民館の仕事

経験の浅い新人職員がスキル

アップを図ることができるよう、公民館職員としての基礎・基本から職務に必要な知識を幅広く網羅した入門書です。



本体2,000円+消費税

3 新訂 公民館における

災害対策ハンドブック

公民館の避難所としての機能を高めるために、平時の防災対策だけでなく、災害対策に備えて事前に準備すべき事項、避難所運営

に必要なポイントなどごあわせて、公民館職員による知恵や経験など先進的な実践例を掲載し、災害対策に寄与する書です。



本体2,000円+消費税

問い合わせ先：
購入申込書があります。
新潟県公民館連合会事務局
TEL 025-266-7711
Email: ni-koren@juno.ocn.ne.jp

農業・農村が日々の生活を支えています

農業・農村は、安全・安心な食料を安定的に供給するとともに、国土や自然環境の保全、良好な景観の形成、文化の伝承などの多面的な機能を有しています。

本県農業・農村振興の取り組みに対する県民の皆様のご理解とご協力をお願いします。

新潟県市町村農業農村振興対策協議会
会長 (糸魚川市長) 米田 徹
新潟市中央区新光町4-1 新潟県自治会館内
TEL 025(285)0041 FAX 025(285)1609

事務局長のつぶやき

「このハゲ」は衝撃的でした。人を叱責するとき、身体的な事を卑下することはタブー...と学校で指導されませんでしたか。

ハゲをウリにしているお笑いタレントでも、私的に「このハ

ゲ」と言われたら笑っては済まされません。この国会議員は辞職しないそうですが、議員活動など続けられるのでしょうか。世の中の多くのハゲ(大変失礼ですが)の方々はこの侮辱を忘れませんよ。□は禍の元。(田原)